

「CoCoLo-34」の分析に生かせるワークシート

「CoCoLo-34」分析用ワークシートの利用について

「いじめ未然防止プログラム」には、学級の状態について質問紙で把握することができるアセスメントツールとして、児童生徒が回答する「CoCoLo-34」や、教員が回答する「CoCoLo-J」があります。「CoCoLo-34」、「CoCoLo-J」の利用の際には、学年会議等で複数の教員により、学級の状態や児童生徒の様子を分析することで、学級の状態や個々の児童生徒に対する理解の幅を広げることができます。

本ワークシートは、「CoCoLo-34」の結果シートを用いて、複数の教員で話し合いを進めながら分析する際に生かすことのできるシートとなります。「CoCoLo-34」に合わせて「CoCoLo-J」を利用した際にも活用できます。

利 用 手 順

- 1 末尾にある<分析用ワークシート>を A3 サイズ等に拡大して印刷する
※複数の教員で分析するため、大きい用紙サイズで印刷してください
- 2 「CoCoLo-34」の結果シートを話し合いに参加する人数分印刷する
※「CoCoLo-J」を実施した場合は、「CoCoLo-J」の結果シートも印刷してください
- 3 各教員の立場から見えている様子や結果の分析について、各自で付せんに記入する
※各教員の立場から見えている子どもの様子について、「強み」と「課題」に分類しながら付せんに記入します
※「CoCoLo-34」の結果シートの「全体の様子」「分布の様子」から読み取れる「強み」と「課題」について付せんに記入します（結果シートの読み取り方は『CoCoLo-34』の利用について」を参照してください）。
- 4 分析する学級について、子どもの様子を知っている教員同士で3～4名のグループをつくる
※各教員の立場から見えている子どもの様子を各自で付せんに記入して提示します
- 5 「協働的な話し合いを進めるためのポイント」を参考に、建設的な話し合いになるよう留意する
※ファシリテーター役の教員を設定することで、話し合いがより促進されます

協働的な話し合いを進めるためのポイント

<話し合いのための基本姿勢>

- 「どうしたらよくなるのか」という改善の視点で話し合う
- 客観的な情報や具体的な事実を土台にして話す
- 相手を批判したり見放したりせず、互いに安心して発言、表現できるようにする

<話題提供する教員（学級担任等）>

- 学級状態の把握や学級の方針等を明確にして話す
- 他教員の意見を学級にどのように生かせるかという柔軟な視点をもつ

<一緒に考える教員>

- 学級担任等の考えや思いに耳を傾け、支援する意識をもって話し合いを進める
- 当事者意識をもって、どのように自分が学級に関われるかという視点をもつ

分析用ワークシートについて

「分析用ワークシート」はグループで話し合う際に参加者で共有しながら話し合えるワークシートとして活用できます。このワークシートをもとに、学年会議等で結果シートの分析や各教員の見立てを合わせて学級の様子についての分析を行うことで、学級の「強み」や「課題」について、より多角的・多面的に分析する際に用います。また、今後の具体的な取組や「いじめ未然防止プログラム」の授業プランの選択等、教員同士で話し合いながら、学級の様子を理解や今後の取組の共通理解のための資料として活用することもできます。

○「分析用ワークシート」の使い方の手順について

「分析用ワークシート」には手順を示す丸数字が①から⑥まで付いています。この丸数字の順に分析や話し合いを進めることで、今後の具体的な取組につながります。

(1)特徴(強み・課題)を分析する

グループの各教員が付せんを利用しながら丸数字の順に分析を進めます。参加する各教員で利用する付せんの色を決めておくと、話し合いの際に便利です。

① アセスメントツール (CoCoLo-34) :参加者個人で「CoCoLo-34」の結果シートから読み取れる学級の「強み」と「課題」について考えた後、記入した付せんを出し合います。

- ・「CoCoLo-34」の平均値のレーダーチャート(11角形)の結果から
- ・資質・能力別評定人数(棒グラフ)の結果から

② 教員の見立て(観察・CoCoLo-J) :各教員の立場から見えている学級の「強み」や「課題」を付せんに記入し、記入した付せんを出し合います。各教員の立場によって、「強み」や「課題」の捉え方は異なるため、多様な意見が出るように留意します。(「CoCoLo-J」を実施した場合は、「CoCoLo-J」の結果から見える「強み」や「課題」について出し合います。)

③ 分析結果(①と②の一致点・相違点) :①と②で示された付せんの「強み」と「課題」をもとに③の枠内に移動させて、「強み」と「課題」の一致点と相違点に分類します。複数の教員から出された「課題」の一致点や①と②で共通して出された「課題」については、全員で共通して取り組みやすい課題となります。相違点については、参加者同士で互いに共有して、具体的な事例を提示しながら児童生徒理解を進めてください。

(2)学級集団の特徴を分析する

(1)の①と②の分析をもとにして、③で整理した結果をまとめます。

④ 集団の特徴(①・②・③から見えてきたもの) :学級全体の特徴や個別の児童生徒の様子、学級担任が気になる点を学級集団の特徴として箇条書き等で枠内に直接記入して、話し合いで出された特徴をまとめます。

(3)学級集団の特徴をもとに取組案を考える

学級集団の「強み」を伸ばし、「課題」を改善するための手立てについて考えます。

- ⑤ 今後の取組案(付せて提案)：各教員が付せんを利用しながら、どのような取組ができるかについて、できるだけ多くの手立てを出し合います。結果シートに記載のある「いじめ未然防止プログラム」の授業プランについては、学級の「強み」と「課題」に合ったものを選びます。「いじめ未然防止プログラム」の授業プランを選択する際は、学級の現状に応じて、適宜アレンジしながら利用してください。

(4)取組案を分類する

(3)の⑤で出し合った手立てについて、「短期的」「長期的」「日常的」「授業・行事」の観点で分類します。

- ⑥ 取組案の分類：⑤で出された付せんを⑥の枠内に移動させながら、「日常的に継続して行う取組」や「授業時に継続して行う取組」等で分類します。その際、組織的・計画的に取り組めるよう、参加者で共通理解を図りながらまとめていきます。

(5)各グループで話し合ったことを全体で共有する

各グループで話し合ったワークシートをもとに全体で共有します。その際、学校全体で共通して取り組めるよう、取組案について具体的な手立てや方法について発表し、組織的な取組として共通理解を図ります。

アセスメントツールを用いた分析シート

分析日： 年 月 日 ()グループ

① アセスメントツール (CoCoLo-34) 強み	
課題	



③ 分析結果(①と②の一致点・相違点) 強みの相違点	
課題の一致点	課題の相違点



② 教員の見立て(観察・CoCoLo-J) 強み	
課題	

④ 集団の特徴(①・②・③から見えてきたもの)

--	--

⑤ 今後の取組案(付せて提案)

--	--



	日常的	⑥ 取組案の分類	授業・行事等
短期的			
長期的			